

青森県経済統計報告

令和 3 年 8 月 6 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和 3 年 7 月 1 日現在）…………… 1

県 人 口 1,216,448 人（対前月 1,064 人減少）

自然動態 900 人減少（出生者数 546 人、死亡者数 1,446 人）
社会動態 164 人減少（転入者数 1,015 人、転出者数 1,179 人）

※県人口は平成 27 年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成 28 年 10 月 26 日）
を基礎に推計したもの。

2 本県の経済動向（令和 3 年 5 月・6 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から厳しい状況が続いているものの、持ち直しの動きがみられる。

なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和 3 年 7 月期）をみると、前期からほぼ横ばいとなり、景気の横ばいを示す 50 を 14 期連続で下回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和 3 年 5 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 27 年＝100）は、季節調整済指数が 100.0 で、前月比 1.6%の低下となり、2 カ月連続で前月を下回った。また、原指数は 100.0 で、前年同月比 11.6%の上昇となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和 3 年 5 月の**定期給与**は 219,905 円で前年同月比 0.2%減となった。 … 3
総実労働時間は 141.2 時間で前年同月比 2.7%増、**所定外労働時間**は 8.2 時間で前年同月比 5.2%増となった。
・令和 3 年 6 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 1.06 倍で、前月を 0.05 ポイント上回り、3 カ月連続で 1 倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和 3 年 6 月の**青森市消費者物価指数**（平成 27 年＝100）は、総合指数が 102.5 となり、前月比 0.1%の上昇、前年同月比 0.7%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 102.3 となり、前月と同水準、前年同月比 0.3%の下落となった。 … 5
- (2-4) 個人消費 ・令和 3 年 6 月の**百貨店・スーパー販売額**は、148 億円で全店舗ベースが前年同月比 0.7%減となり、4 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 1.5%減となり、4 カ月ぶりに前年同月を下回った。 … 6
・令和 3 年 6 月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 3,109 台で、前年同月比 3.0%減となり、4 カ月ぶりに前年同月を下回った。
・令和 3 年 6 月の主な観光施設の**観光入込客数**は、41 万 7 千人で前年同月比 10.0%増となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、11 万 6 千人で前年同月比 37.3%増となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 ・令和 3 年 6 月の**新設住宅着工戸数**は 512 戸で、前年同月比 11.3%減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。 … 8
・令和 3 年 6 月の**公共工事請負金額**は 324 億 6,100 万円で前年同月比 20.2%増となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-6) 企業倒産 令和 3 年 6 月の**企業倒産**は、件数は 3 件で前年同月と同数となった。負債総額は 1 億 5,200 万円で前年同月比 0.7%増となった。 … 8

（3）景気動向指数 C I（令和 3 年 5 月分）…………… 9

先行指数 155.4（前月を 19.6 ポイント上回り、4 カ月連続で上昇した）
一致指数 85.5（前月を 4.0 ポイント上回り、3 カ月連続で上昇した）
遅行指数 99.7（前月を 10.1 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和 3 年 7 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I … 42.3（前期比 0.1 ポイント低下、14 期連続で 50 を下回る）
3 カ月後の景気の先行き判断 D I … 53.3（現状判断 D I と比べ 11.0 ポイント上昇、50 を上回る）

1 青森県の推計人口（令和3年7月1日現在）

【概 況】

令和3年7月1日現在の本県推計人口は、1, 216, 448人で、前月に比べ1, 064人の減少となった。

○自然動態

出生者数が546人、死亡者数が1, 446人で、900人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1, 015人、転出者数が1, 179人で、164人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令2. 7. 1	1,232,681	578,939	653,742	-0.073%	-904	-790	631	1,421	-114	1,027	1,141
令2. 8. 1	1,232,064	578,750	653,314	-0.050%	-617	-729	626	1,355	112	1,506	1,394
令2. 9. 1	1,231,561	578,640	652,921	-0.041%	-503	-794	591	1,385	291	1,478	1,187
令2. 10. 1	1,230,715	578,175	652,540	-0.069%	-846	-862	547	1,409	16	1,292	1,276
令2. 11. 1	1,229,854	577,808	652,046	-0.070%	-861	-939	587	1,526	78	1,258	1,180
令2. 12. 1	1,228,730	577,273	651,457	-0.091%	-1,124	-1,057	536	1,593	-67	926	993
令3. 1. 1	1,227,653	576,763	650,890	-0.088%	-1,077	-1,054	513	1,567	-23	1,008	1,031
令3. 2. 1	1,226,343	576,092	650,251	-0.107%	-1,310	-1,294	487	1,781	-16	1,027	1,043
令3. 3. 1	1,225,034	575,390	649,644	-0.107%	-1,309	-1,084	453	1,537	-225	1,023	1,248
令3. 4. 1	1,219,435	572,505	646,930	-0.457%	-5,599	-1,080	584	1,664	-4,519	3,583	8,102
令3. 5. 1	1,218,783	572,324	646,459	-0.053%	-652	-928	604	1,532	276	2,861	2,585
令3. 6. 1	1,217,512	571,697	645,815	-0.104%	-1,271	-1,010	540	1,550	-261	884	1,145
令3. 7. 1	1,216,448	571,209	645,239	-0.087%	-1,064	-900	546	1,446	-164	1,015	1,179

6 月中の人口動態の推移

（単位：人）

年月	H23.6	24.6	25.6	26.6	27.6	28.6	29.6	30.6	R元.6	R2.6	3.6
自然 動態	出生者数	853	692	683	711	750	689	643	624	611	546
	死亡者数	1,259	1,271	1,229	1,283	1,357	1,330	1,317	1,361	1,314	1,446
	自然増減数	-406	-579	-546	-572	-607	-641	-674	-737	-703	-900
社会 動態	県外からの 転入者数	1,506	1,270	1,218	1,247	1,257	1,126	1,193	1,109	1,091	1,015
	県外への 転出者数	1,479	1,236	1,273	1,441	1,371	1,288	1,329	1,273	1,363	1,179
	社会増減数	27	34	-55	-194	-114	-162	-136	-164	-272	-164
増減数計		-379	-545	-601	-766	-721	-803	-810	-901	-975	-1,064

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

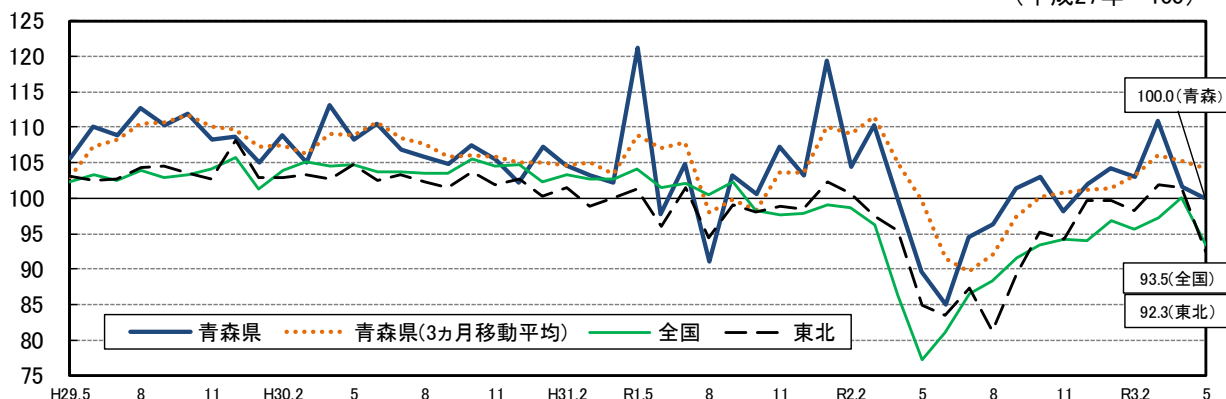
(2-1) 生産動向

令和3年5月の青森県鉱工業生産指数（平成27年＝100）は、季節調整済指数が100.0で、前月比1.6%の低下となり、2ヵ月連続で前月を下回った。また、原指数は100.0で、前年同月比11.6%の上昇となり、3ヵ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、金属製品工業、電子部品・デバイス工業、電気機械工業等が上昇に寄与した一方、生産用機械工業、非鉄金属工業、輸送機械工業等が低下し、鉱工業全体では1.6%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

（平成27年＝100）



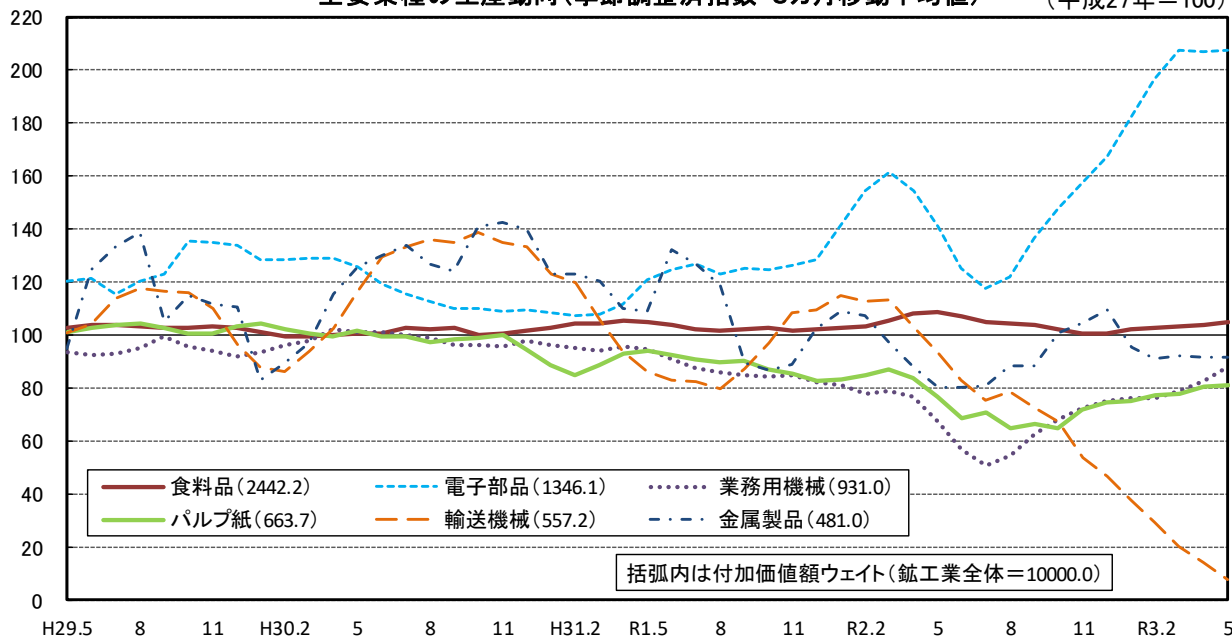
◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 -1.6%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
金属製品工業	47.8	103.0	生産用機械工業	-64.7	-114.4
電子部品・デバイス工業	5.5	99.4	非鉄金属工業	-11.2	-33.9
電気機械工業	14.9	48.9	輸送機械工業	-63.8	-22.4
業務用機械工業	4.2	23.1	パルプ・紙・紙加工品工業	-5.7	-21.4
化学工業	6.8	17.7	食料品工業	-1.1	-19.7

※寄与率とは、総合指数の上昇（低下）に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウェイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向（季節調整済指数・3ヵ月移動平均値）

（平成27年＝100）



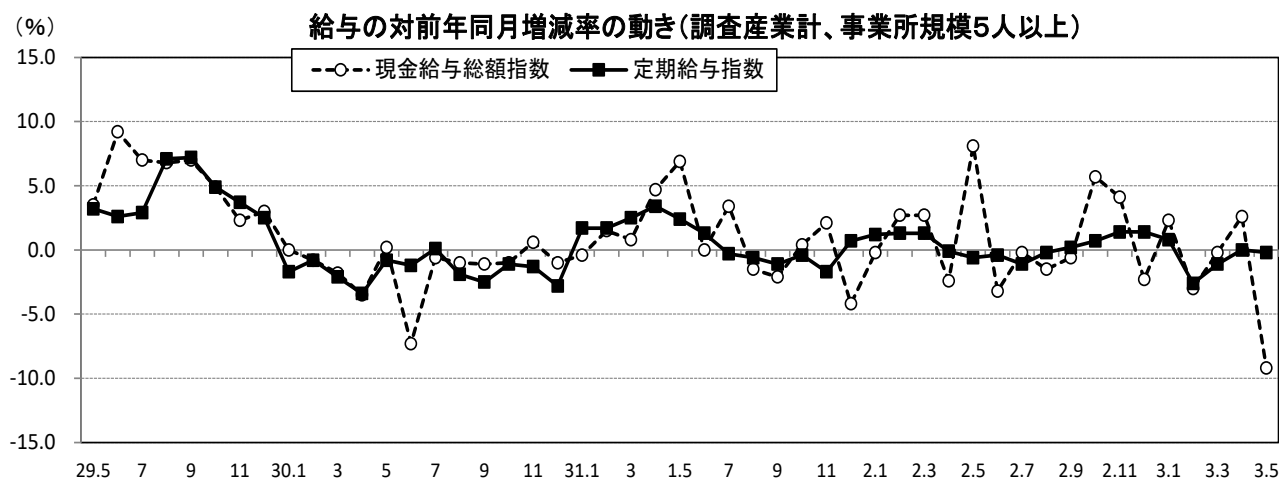
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和3年5月の定期給与は219,905円で、定期給与指数（平成27年＝100）では101.8となり、前年同月比0.2%減と2カ月ぶりの減（現金給与総額236,069円、現金給与総額指数94.1、前年同月比9.2%減）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は83.8となった。

総実労働時間は141.2時間で、総実労働時間指数は91.3となり、前年同月比2.7%増と3カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は8.2時間で、所定外労働時間指数は71.3となり、前年同月比5.2%増と4カ月ぶりの増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

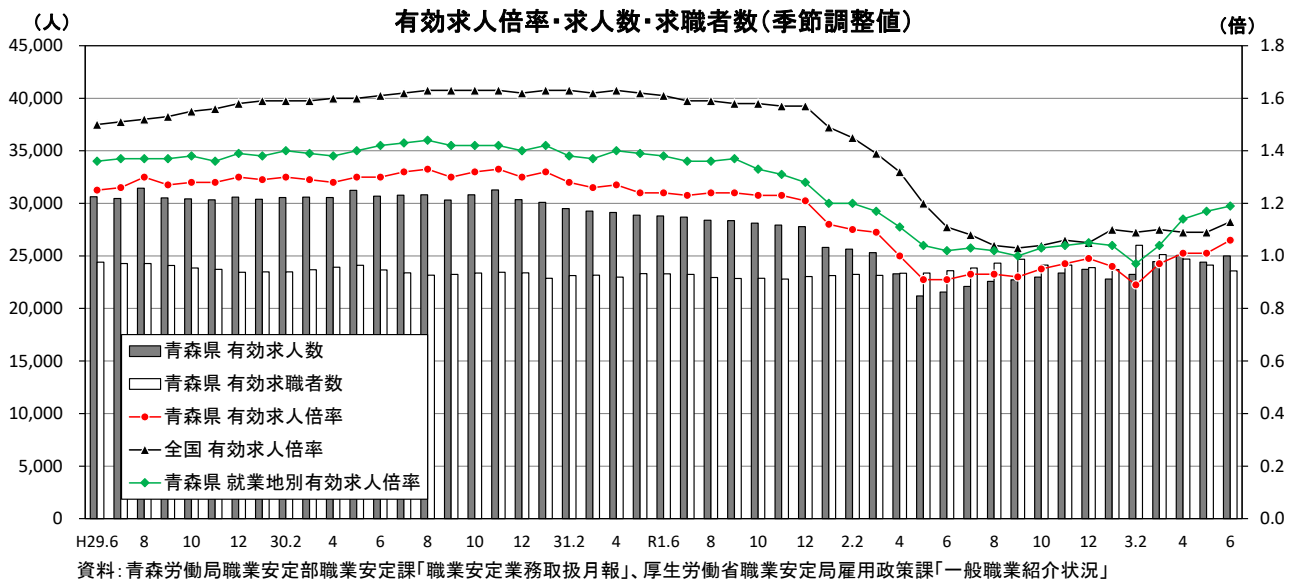
	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	236,069 円	273,915 円	94.1	86.8	-9.2 %	1.9 %
定期給与	219,905 円	262,404 円	101.8	100.7	-0.2 %	1.8 %
特別給与	16,164 円	11,511 円	—	—	—	3.7 %
総実労働時間	141.2 時間	129.9 時間	91.3	90.0	2.7 %	6.8 %
所定内労働時間	133.0 時間	120.7 時間	92.9	90.4	2.5 %	5.4 %
所定外労働時間	8.2 時間	9.2 時間	71.3	83.6	5.2 %	27.6 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

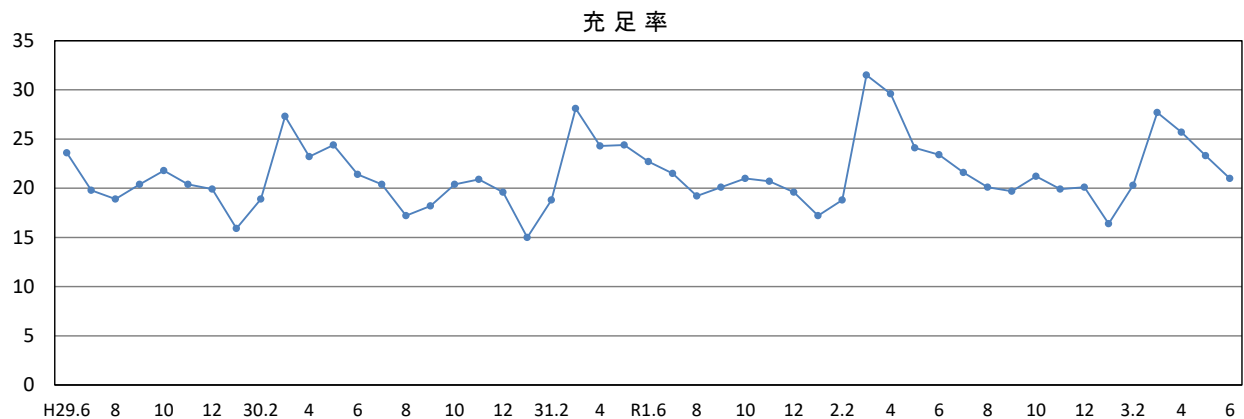
（２－２－２）有効求人倍率

令和３年６月の有効求人倍率（季節調整値）は１.０６倍で、前月を０.０５ポイント上回り、３カ月連続で１倍を上回った。就業地別有効求人倍率は１.１９倍で、前月を０.０２ポイント上回った。



（参考）充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和３年６月の充足率は２１.０％で、前年同月を２.４ポイント下回った。



(2-3) 物価

令和3年6月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が102.5となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.7%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.7となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.7%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.3となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.3%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.7%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、住居などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

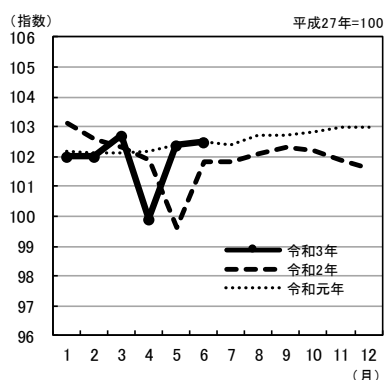


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

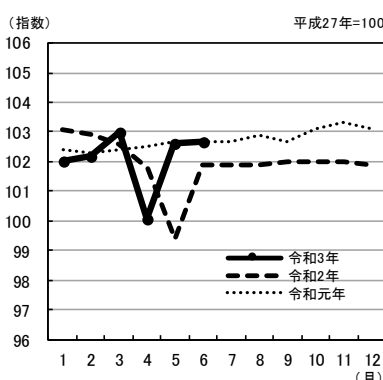
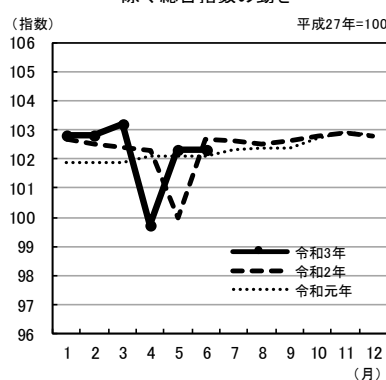


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	雑費
当月指数	102.5	102.7	102.3	100.6	106.1	99.5	102.4	103.3	105.7	103.6	101.9	95.1	95.4	104.7	99.4
前月比(%)	0.1	0.1	0.0	▲0.2	0.5	0.3	0.0	0.4	▲1.5	▲1.0	▲0.1	0.1	0.0	0.2	▲0.3
寄与度	—	0.09	0.00	▲0.14	0.15	0.02	0.00	0.05	▲0.06	▲0.03	0.00	0.01	0.00	0.02	▲0.02
前年同月比(%)	0.7	0.7	▲0.3	▲0.5	0.1	0.9	0.9	4.1	1.6	▲2.2	▲0.7	▲1.0	0.2	0.7	2.7
寄与度	—	0.69	▲0.29	▲0.30	0.04	0.04	0.19	0.44	0.07	▲0.07	▲0.03	▲0.13	0.00	0.06	0.15

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

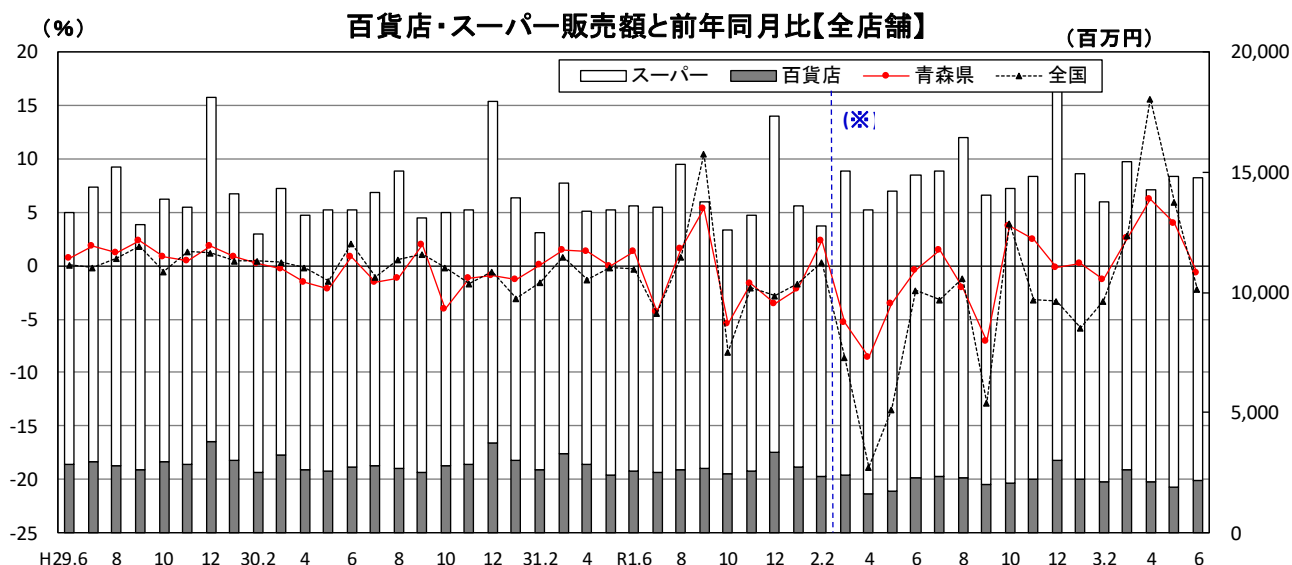
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

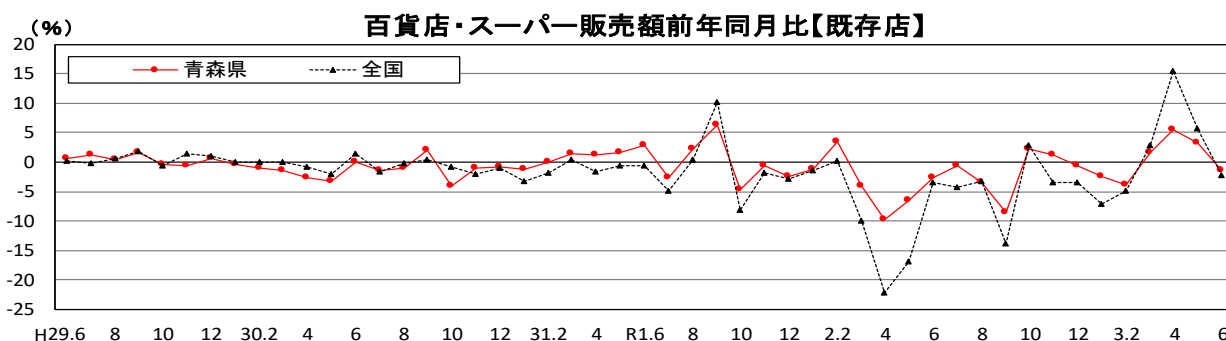
令和3年6月の百貨店・スーパー販売額は、148億円で全店舗ベースが前年同月比0.7%減(前々年同月比1.1%減)となり、4カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比1.5%減となり、4カ月ぶりに前年同月を下回った。



資料:経済産業省「商業動態統計速報」

※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。

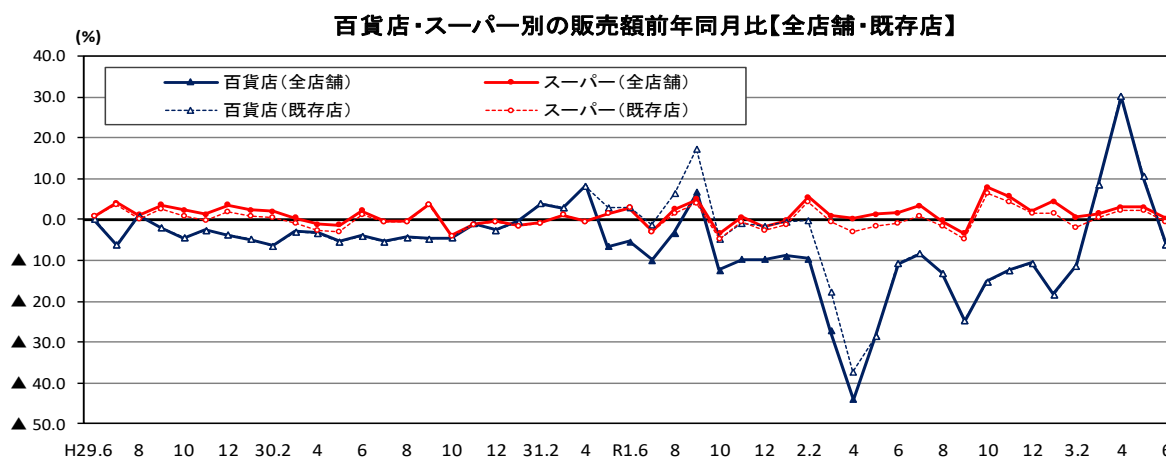
R2.3月からはH28年経済センサス・活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。



資料:経済産業省「商業動態統計速報」

※百貨店は、従業者50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっている事業所を除く。

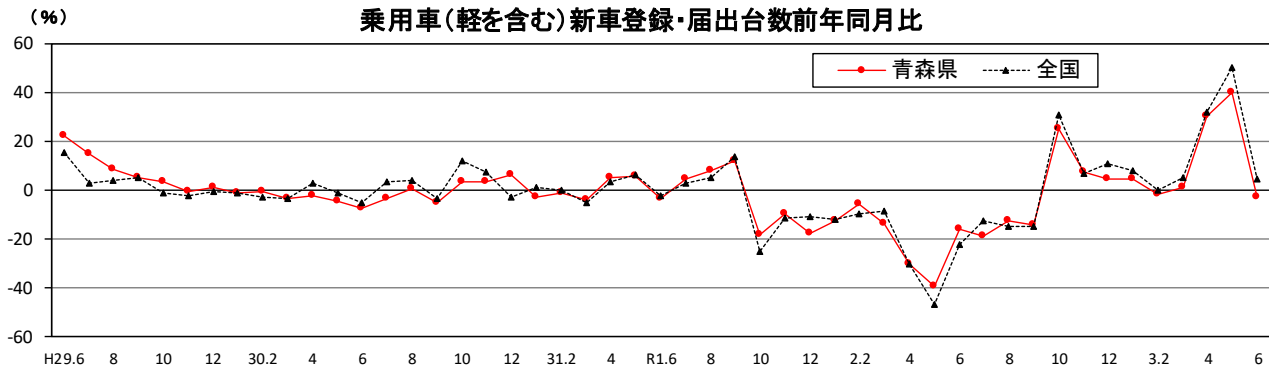
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。



資料:経済産業省「商業動態統計速報」

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

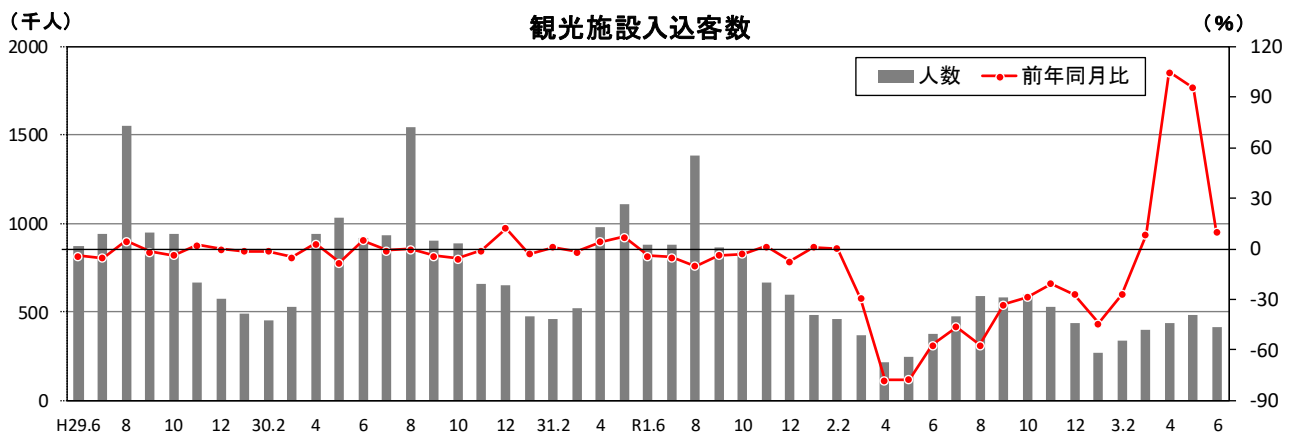
令和3年6月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,109台で、小型車と軽乗用車が減少したことにより、前年同月比3.0%減(前々年同月比18.4%減)となり、4カ月ぶりに前年同月を下回った。



資料: 日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

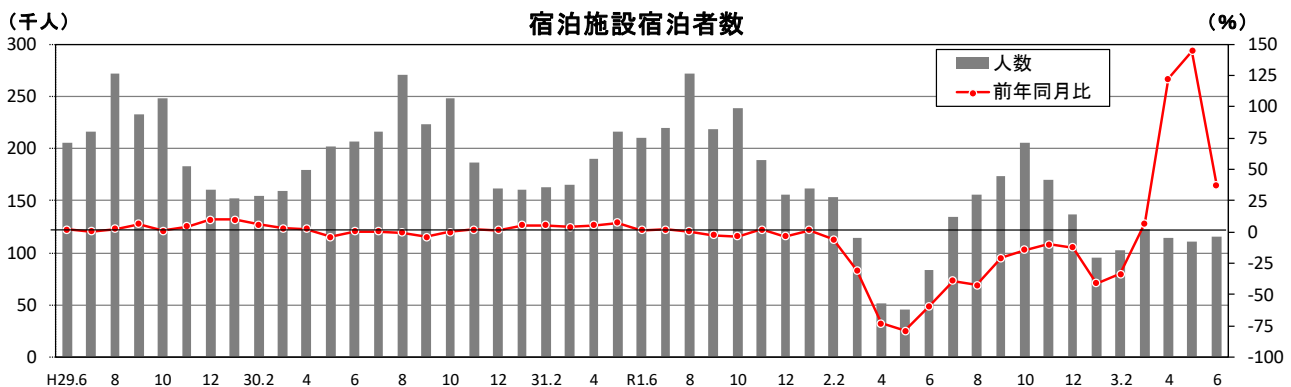
(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和3年6月の主な観光施設の観光入込客数は、41万7千人で前年同月比10.0%増(前々年同月比52.6%減)となり、4カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、11万6千人で前年同月比37.3%増(前々年同月比44.9%減)となり、4カ月連続で前年同月を上回ったものの、いずれも前々年同月を下回っている。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設35施設(H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月～H28年12月は34施設、H29年1月以降は35施設対比)



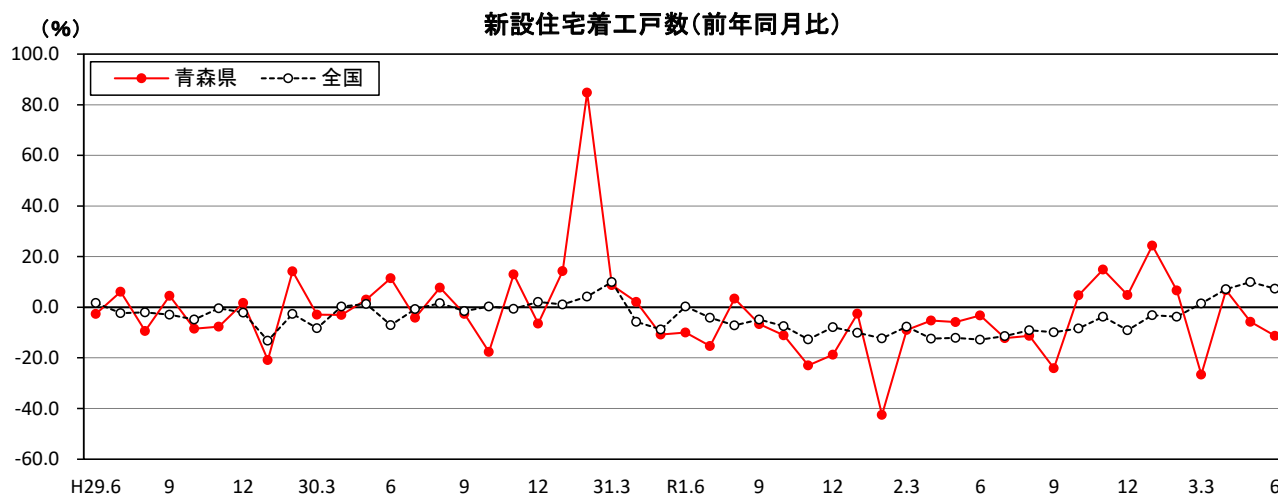
資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※宿泊施設 全県75施設(H30年6月まで79施設、H30年7月は78施設、H30年8月～R1年5月は79施設、R1年6月～7月は80施設、R1年9月～R2年3月は78施設、R2年4月～5月は77施設、R2年6月～10月は以降は76施設、R2年11月からは75施設対比)

(2-5) 建設

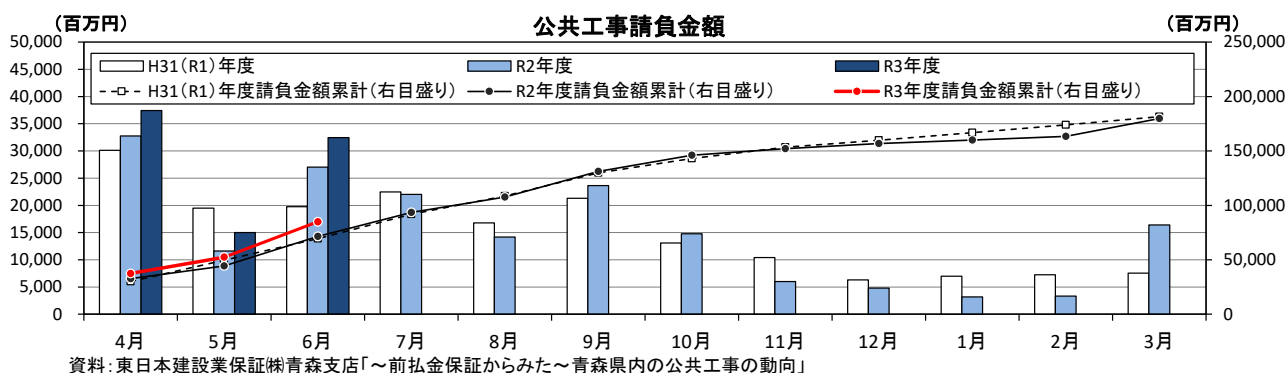
(2-5-1) 住宅建設

令和3年6月の新設住宅着工戸数は512戸で、前年同月比11.3%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。主に貸家が減少したことによる。



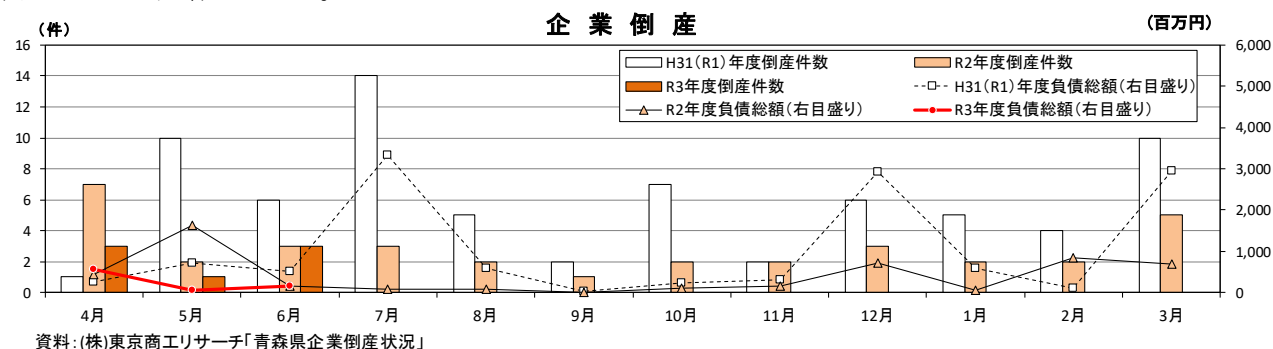
(2-5-2) 公共事業

令和3年6月の公共工事請負金額は324億6,100万円の前年同月比20.2%増となり、市町村や県の発注工事が増加したことにより4カ月連続で前年同月を上回った。また、令和3年6月までの累計金額は848億9,100万円の前年同月比18.9%増となった。



(2-6) 企業倒産

令和3年6月の企業倒産は、件数は3件で前年同月と同数となった。負債総額は1億5,200万円の前年同月比0.7%増となった。



(3) 青森県景気動向指数

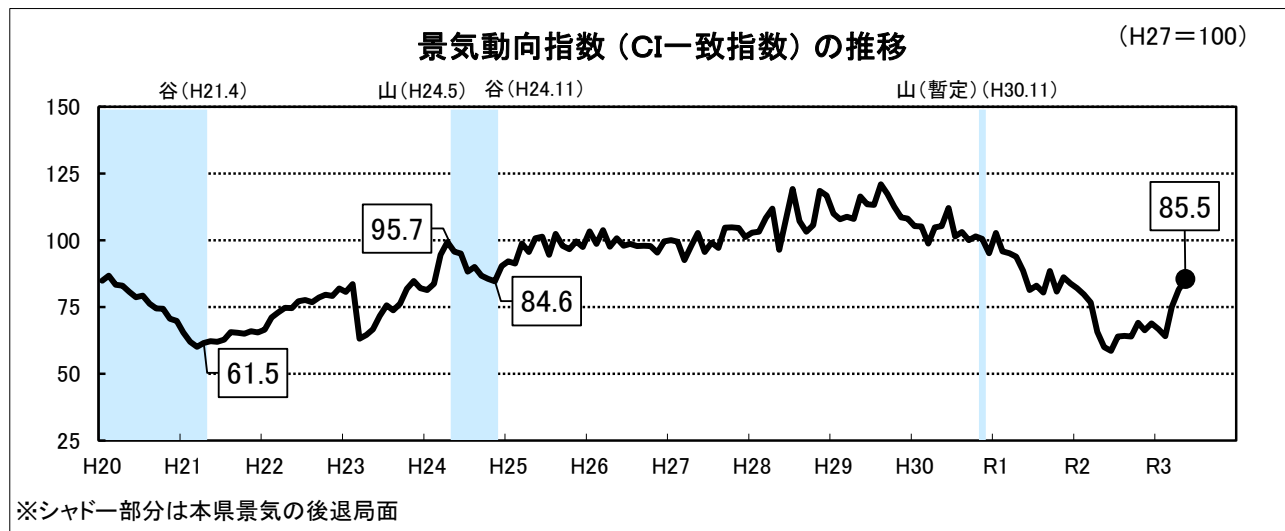
令和3年5月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 155.4、一致指数 85.5、遅行指数 99.7 となった。

先行指数は、前月を 19.6 ポイント上回り、4 カ月連続で上昇した。

一致指数は、前月を 4.0 ポイント上回り、3 カ月連続で上昇した。

遅行指数は、前月を 10.1 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

5 月の一致指数は、消費、雇用、流通関連の指標がプラスになったことから上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

●個別系列の動き（各指標は季節調整を行ない、前年度と前月と比較して、より）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	8.49	2カ月ぶり	企業倒産件数（逆サイクル）	-0.91	2カ月ぶり
生産財生産指数	6.36	3カ月連続	建築着工床面積	-0.79	3カ月連続
乗用車新車登録届出台数	3.14	3カ月連続	新設住宅着工床面積	-0.40	2カ月ぶり
日経商品指数（42種）	1.97	8カ月連続			
中小企業景況D I	1.02	2カ月ぶり			
一致系列					
旅行取扱高	3.01	3カ月連続	百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.76	3カ月ぶり
所定外労働時間指数（全産業）	1.46	3カ月連続	投資財生産指数	-0.65	2カ月連続
輸入通関実績（八戸港）	1.33	2カ月連続	鉱工業生産指数	-0.40	2カ月連続
			有効求人倍率（全数）	-0.06	3カ月ぶり
遅行系列					
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	3.42	2カ月ぶり	りんご消費地市場価格	-0.56	5カ月連続
青森市消費者物価指数（総合）	3.39	2カ月ぶり			
県内金融機関貸出残高	1.65	2カ月ぶり			
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	0.86	2カ月ぶり			
常用雇用指数（全産業）	0.52	4カ月ぶり			
公共工事請負金額	0.40	2カ月ぶり			

（参考）青森県景気動向指数（D I）

先行指数	75.0%	（10 カ月連続で50%を上回った）
一致指数	71.4%	（9 カ月連続で50%を上回った）
遅行指数	71.4%	（2 カ月連続で50%を上回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和3年7月期）

現状判断D Iは、コロナ禍の長期化による経済活動の停滞により、観光業・飲食業を中心に悪い状況のまま変わらないとする声や、ワクチン接種が始まっても状況に変化がないなどの声があり、前期比0.1ポイント低下の42.3とほぼ横ばいとなった。

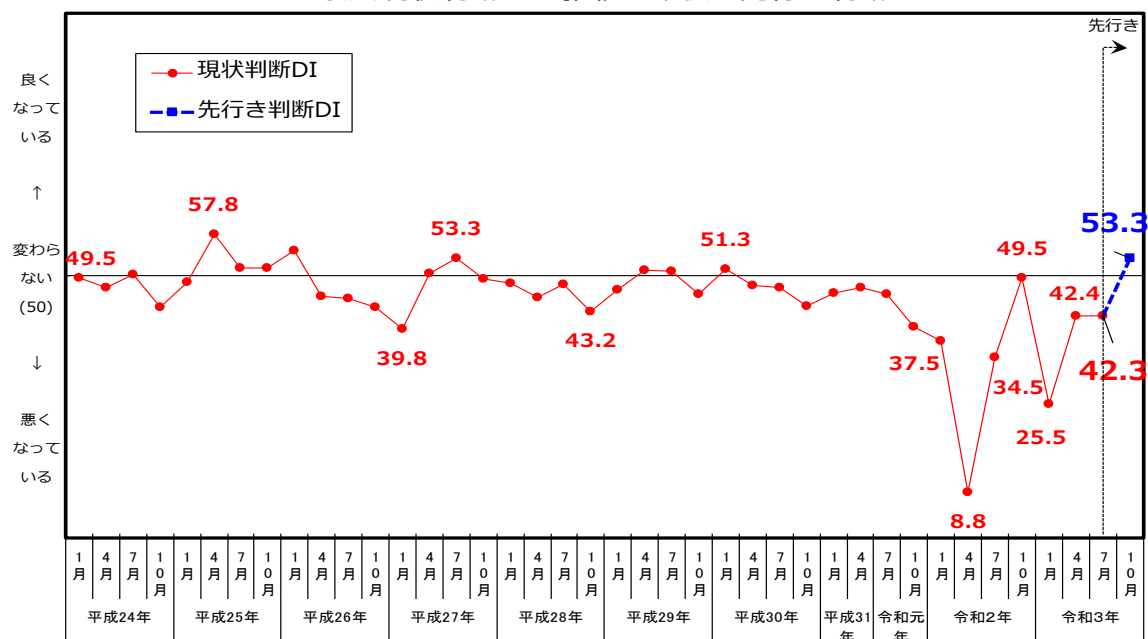
先行き判断D I は、ワクチン接種による人出の増加や購買活動の高まりを期待する声が多く、現状判断D I と比較して11.0ポイント上昇の53.3となったが、ワクチン接種の遅れや東京オリンピック終了後の感染拡大への懸念を挙げる声もあった。

3カ月前と比べた景気の現状判断D Iは、景気の横ばいを示す50を14期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を上回った。

(調査期間 令和3年7月1日～7月26日 回答率 100%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気の現状判断

動 向	前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント低下、「やや良くなっている」が4.2ポイント低下、「変わらない」が11.6ポイント上昇、「やや悪くなっている」が7.3ポイント低下、「悪くなっている」が0.9ポイント上昇となった。全体では42.3となり、前期から0.1ポイント低下し、景気の横ばいを示す50を14期連続で下回った。
	判断理由では、控えてきた計画を実行に移してきている、購買活動が徐々に活発になりつつあるという声がある一方で、観光業・飲食業を中心に景気が底のまま推移している、コロナ禍が長引き経済活動が停滞しているなどの声があった。また、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進んでいないことを挙げる声もあった。 地区別では、前期調査と比べて、東青と津軽は低下、県南は上昇、下北は横ばいとなり、いずれも景気の横ばいを示す50を下回っている。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動 向	<p> 今期調査の現状判断D I と比べると、「良くなる」が2.0ポイント上昇、「やや良くなる」が21.0ポイント上昇、「変わらない」が11.0ポイント低下、「やや悪くなる」が5.0ポイント低下、「悪くなる」が7.0ポイント低下となった。全体では、今期調査の現状判断D I と比べて11.0ポイント上昇の53.3となり、景気の横ばいを示す50を上回った。 </p>
	<p> 判断理由では、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種による人出の増加や購買活動の高まりを期待する声が多かった一方で、夏祭りの中止やワクチン接種の遅れ、東京オリンピック終了後の感染拡大の懸念を挙げる声があった。また、小売業ではプレミアム商品券への期待感、建設業ではウッドショックによる建築資材の遅れなど、業種特有の要因を挙げる声もあった。 </p> <p> 地区別では、今期調査の現状判断D I と比べて、全地区でポイントが増加した。 </p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

○	コロナ禍の中での行動の仕方に慣れてきたのか、少しずつ人の流れが増えてきている。(ガソリンスタンド=東青)
○	コロナの影響で控えていた計画も徐々に実行へとなっています。(設計事務所=津軽)
○	ワクチン接種が始まって自粛ムードが緩和され、購買活動が徐々に活発になりつつある。(経営コンサルタント=東青)
□	3カ月前も悪かったので同じ。緊急事態宣言によりツアーキャンセルあり。(観光名所等=東青)
□	まだまだ新型コロナウイルスの影響が景気に悪影響している。(旅行代理店=津軽)
□	観光・飲食業の景気は底のまま推移している。(都市型ホテル=津軽)
□	前年は、一時金の支給で一瞬消費が上向いた時があったが、今年は要因が見当たらない。又、前年に引き続き七夕まつり、三社大祭など中止になっている。(百貨店=県南)
□	想像していたほどの変化はない。ワクチン接種も2回目の接種を終えたら、もう少し人の動きが出てきてもいいのではないかと期待していたが残念。(タクシー=県南)
□	コロナ感染は減少傾向にはあるが、まだ感染が続いており小康状態とは言えず、上向きといえる好転材料は見えてはいない。(建設=県南)
□	新型コロナウイルス感染症の収束がいまだみられない。(新聞社求人広告=東青)
△	春先にはいったん景気が上向いた。しかし、県内でのコロナ感染が増えだすと人の移動が途絶え昨年よりも深刻と考えている。(衣料専門店=東青)
△	持久戦が長引き、自分ではどうしようにもなくなっている。(設計事務所=県南)
△	コロナの影響で中小の宿泊業、飲食業は壊滅的です。いいのは、運輸、大手小売りなどでしょうか？自粛空気が経済を停滞させていると思います。(経営コンサルタント=県南)
×	宿泊施設や料理飲食店を中心に客足が全くなく静まりかえっている。(観光名所等=津軽)
×	年度末や新年度の時期は必要最低限の動きはあったように感じるが、今はほとんど感じられない。(商店街=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	ワクチン接種が終わると外食する人が増えると思う。小人数での宴会、会食が増えてほしい。(レストラン=県南)
○	ワクチン接種が広がることにより、世の中が明るい方向に向かうことに期待している。(商店街=東青)
○	今より良くなって欲しいと思っているし、周りの経済的な動きも良くなっていると思います。個人の購買意欲も上がってきているように思えるため。(乗用車販売=東青)
○	気温上昇・オリンピック・夏休み人の動き活発化。(コンビニ=県南)
○	ワクチン接種が進みコロナ発生が抑制され消費活動が少しずつ改善。今は余裕がない状態が続いているので接種により改善されていくのではないかと考えます。(スーパー=下北)
○	新型コロナウイルスの感染拡大のリスクが心配だが、それさえなければ3カ月後も製造業の工場は忙しいと思われる状況です。(電気機械製造=県南)
○	広くワクチン接種が浸透することで、消費動向が上向いていくと思うから。(新聞社求人広告=津軽)
□	コロナの影響でまだまだ厳しいと思います。(旅行代理店=東青)
□	ワクチン接種の遅延により、人々が自由に行動できるようになるまでは、まだ時間が必要。(ガソリンスタンド=東青)
□	ワクチン効果を期待していた、報道数値から効果は少しずつ表れてきたが反映されていない。各地の夏祭り中止、オリンピック無観客で期待した景気浮揚が出来ないのでは昨年以上の景気停滞感がある。各地でプレミアム商品券が発売されているので期待したい。(衣料専門店=東青)
□	コロナ感染症の状況次第だと思われるが、当地において、未だワクチン接種の見込みすら、未定の発表であることから、往来の自由は難しいものと思われる。(ガソリンスタンド=県南)
□	ワクチン接種も思うように進まず、3カ月位では景気の上向きは期待出来ない。(都市型ホテル=下北)
□	ワクチン接種の進捗遅延などでまだ先の見通せない状況のため。(人材派遣=東青)
△	東京都に4回目の緊急事態宣言が7月12日から8月22日まで発令され、東北地方への盆期間の帰省客が少なくなると見込まれるためです。(家電量販店=東青)
△	ワクチン供給の不透明感と東京オリパラ終了後の感染拡大の懸念。(広告・デザイン=東青)
×	ねぶた祭、二年連続中止の影響は甚大。(一般小売店=東青)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」